

BEAMS 研修

Stage1

と き 令和6年12月1日(月) 19:00～20:30

ところ Zoom ミーティング

Stage2 + α

と き 令和6年12月22日(日) 10:00～15:00

ところ 山口県医師会6階会議室

[報告: 常任理事 河村 一郎]

近年、児童虐待の数は年々増加しており、医療従事者は一層適切に対応していく必要があるが、虐待の具体的な対応方法の習得については、いまだ不十分と言わざるを得ない状況である。BEAMSは日本子ども虐待医学会が開発した「医療機関向けの虐待対応プログラム」で、「Stage1」「Stage2」「Stage3」とある。

現在のところ、山口県内12の小児科入院病床のある病院のうち、院内に虐待対応のチーム(CPT: Child Protection Team)がある病院は7か所しかない。児童虐待の防止は、子どもが受診するすべての診療科(外科、脳神経外科、整形外科、皮膚科、眼科、耳鼻咽喉科、泌尿器科、産婦人科など)の協力がないと防ぐことはできず、外傷などが見逃されてしまうこともある。

BEAMS研修の開催は福岡県では事業化して毎年数回行われているが、山口県内ではあまり行われていない。児童虐待への具体的な対応あるいは虐待予防に有意義なものと考えられ、今年度から県医師会で開催することとした。

「Stage1」は、受講者が虐待の早期発見と通告の意義を理解し、医療機関でのSentinel(歩哨・見張り番)として適切な行動がとれるようになることが目標で、すべての医療関係者が対象となっており、一人でも多くの医療関係者に子ども虐待について考えるきっかけになることを目指す。プログラムは講義形式となっている。

今年度は日本子ども虐待医学会の副理事長でもある社会医療法人聖ルチア会聖ルチア病院精神科

の神蘭淳司先生に、「子ども虐待環境を抱える家族—現状と支援の課題—」のタイトルで講義いただいた。

内容は、自傷、自殺行為、うつ、不登校など子どもたちの現状から始まり、子ども虐待の現状、虐待診療のエッセンス、性虐待とその予防、こころを聴くことからチーム医療の実際についてお話しいただいた。

参加者は102名で、医師38名、医師以外64名であった。

「Stage2」は、受講者が被虐待児の安全を担保し地域へ繋げ、医学診断をネットワークに的確に提供できるようになることが目標で、CPTのメンバー及び小児科医が対象となっているが、虐待対応についてより深く学びたいと考えるその他の職員も受講可能となっており、すべての二次医療圏での虐待対応能力のボトムアップがなされていくことを目指す。プログラムは講義形式であるが、今年度の研修会では、「Stage2 + α 」としてグループワークなど実践編を含んだプログラムを組んでいた。

午前中は「Stage1」で講義いただいた神蘭先生に「エビデンスに基づいた子ども虐待チーム診療～実践編～」のタイトルで骨折、頭部外傷など外傷からの診断方法、性虐待の実際について講義いただいた。午後からは「実践編: 模擬事例検討会」ということで、まずは提示された模擬事例に対して、約6人ずつのグループに分かれて、気になる点、問題点、疑問点を挙げ、その対応策や

改善点をディスカッションした。その後、重要となるポイントを福岡赤十字病院小児科の古野憲司先生、飯塚病院小児科の田中祥一郎先生、北九州市立八幡病院小児科の森吉研輔先生、福岡県福岡児童相談所弁護士の一宮里枝子先生にミニレクチャーとともに発言いただいた。

参加者は41名で、医師21名（小児科17名、外科1名、精神科1名、麻酔科1名、研修医1名）、看護師7名、心理士5名、ほか保健師、教諭、保育士、社会福祉士など多職種の参加があった。

来年度も行う予定なので、興味のある方はぜひ参加いただきたい。



閑話求題

旅する蝶 アサギマダラ

大島郡 野村 壽和

以前立ち寄った園芸店でフジバカマを目にし、雑誌で読んだ「旅する蝶 アサギマダラ」を思い出し迷わず購入。さっそく小さな庭に植え、フジバカマの成長とアサギマダラの飛来を楽しみに毎日水かけを行いました。待ちに待ったアサギマダラ初飛来は、10月終りで3頭（初めて蝶の数を数えました）が確認できました。多くはないが、その後、一日5頭前後の飛来で1週間ぐらい楽しませてもらいました。そして昨年。挿し木で増えたフジバカマに一昨年より多くの飛来を期待していましたが、結果は数も日数も少なくなっていました。調べてみると、夏が異常に暑かったため、飛来するころには、フジバカマの開花が終わりかけていたのかもしれない、と記載されていました。猛暑の影響はここでもみられていました。今年もアサギマダラに出会えるよう、花壇拡大に挑戦します。たくさんの飛来が、訪れた方の癒しになればと思います。また、今年はマーキングに挑戦したいと思っています。